

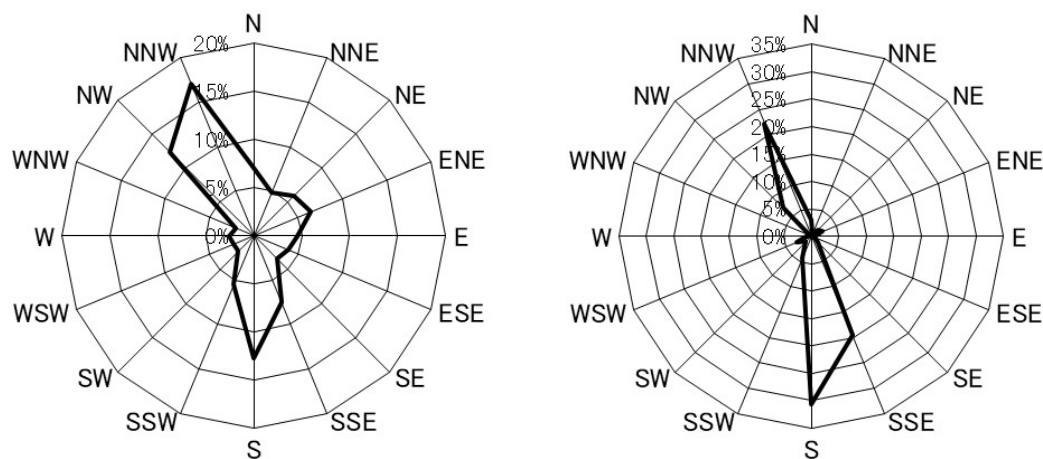
4.8.3 風害

(1) 現況調査

ア. 地域の風の状況

ア) 風向出現頻度

幸測定局における平成27年4月～令和7年3月の風向別出現頻度は、図4.8.3-1に示すとおりである。平均風速が1m/s以上の風向出現頻度は北北西(17.1%)、南(12.7%)が大きくなっており、平均風速が5m/s以上の場合は南(30.6%)、北北西(22.3%)が大きくなっている。



【平均風速 1m/s 以上】

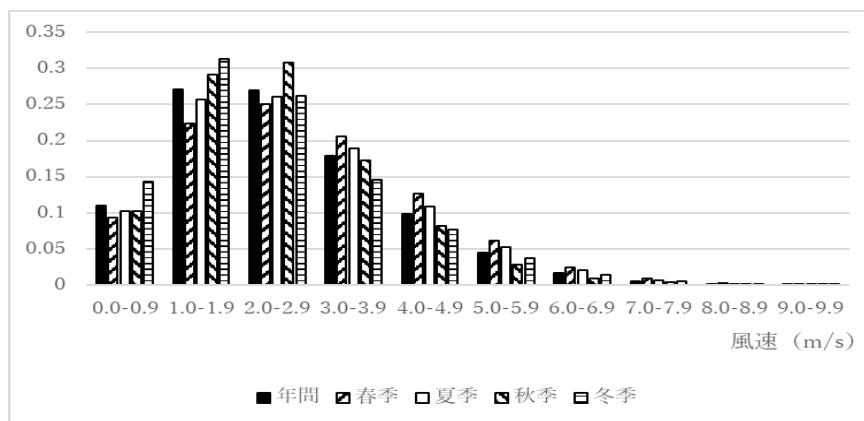
【平均風速 5m/s 以上】

資料：「川崎市大気データ 確定値のダウンロード」(令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ)

図4.8.3-1 幸測定局の平均風速の風向別出現頻度 (平成27年4月～令和7年3月)

イ) 風速出現頻度

幸測定局における平成27年4月～令和7年3月の季節別風速出現頻度は、図4.8.3-2に示すとおりである。冬季は平均風速1.0～1.9m/s風の頻度が高く、冬季以外の季節及び年間では平均風速2.0～2.9m/sの風の頻度が高くなっている。また、風速5.0m/s以上の比較的強い風は、春季に頻度が高い傾向にある。



注) 春季:3～5月、夏季:6～8月、秋季:9～11月、冬季:12～2月

資料：「川崎市大気データ 確定値のダウンロード」(令和7年10月閲覧 川崎市ホームページ)

図4.8.3-2 幸測定局の風速別出現頻度 (平成27年4月～令和7年3月)

(2) 予測及び評価

ア. 予測

(ア) 風向及び風速の状況

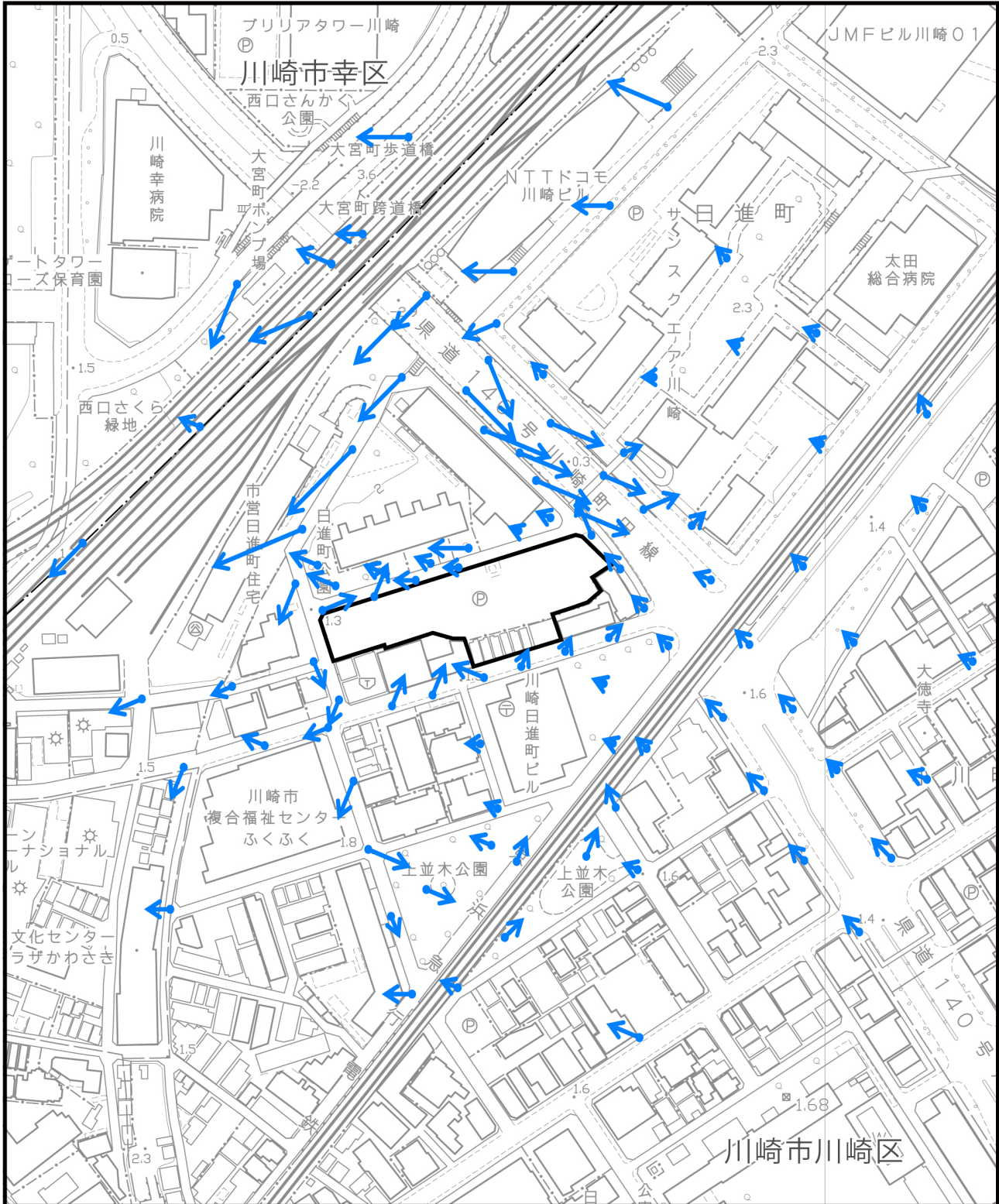
幸測定局の主風向である、北北西及び南の風向について、地上 2m における幸測定局の風速との比（風速比）の予測結果は、図 4.8.3-3(1)～(3)及び図 4.8.3-4(1)～(3)に示すとおりである。

北北西の風が出現する場合、現況においては、計画地北側及び北東側の県道 140 号川崎町田線沿いの歩道や、北西側の市営日進町住宅付近において、相対的に風速が大きい状況が確認される。一方、計画地の敷地境界線周辺及び低層市街地に囲まれた地域では、建物群による遮蔽の影響により、風速は比較的小さい。

建設後（防風対策等を行わない場合）には、現況時に比較的風速が大きかった測定点では風速の変化はあまり見られないが、計画建築物の出現により、風向が変化する区域もみられる。建設後において植栽等の防風対策を講じた場合においても同様の傾向がみられる。


南の風が出現する場合、現況においては、計画地南東側の広場や京浜急行線の高架付近、北側の大宮町ポンプ場付近や NTT ドコモ川崎ビル付近において、相対的に風速が大きい状況が確認される。計画地の敷地境界線周辺では、計画地南側で相対的に風速がやや大きい状況が確認される。

建設後（植栽等の対策を行わない場合）には、現況時に比較的風速が大きかった測定点では風速の変化はあまり見られない。一方で、計画地北側の敷地境界線周辺の風速が大きくなると予測される。また、建設後（植栽あり）の風環境は、建設後（植栽なし）に比べ、計画地北側の風速が低減し、この範囲での植栽の効果が大きいと予測する。



凡 例

- 計画地
- 区界
- ↙ 風向・風速


Scale 1:2,500


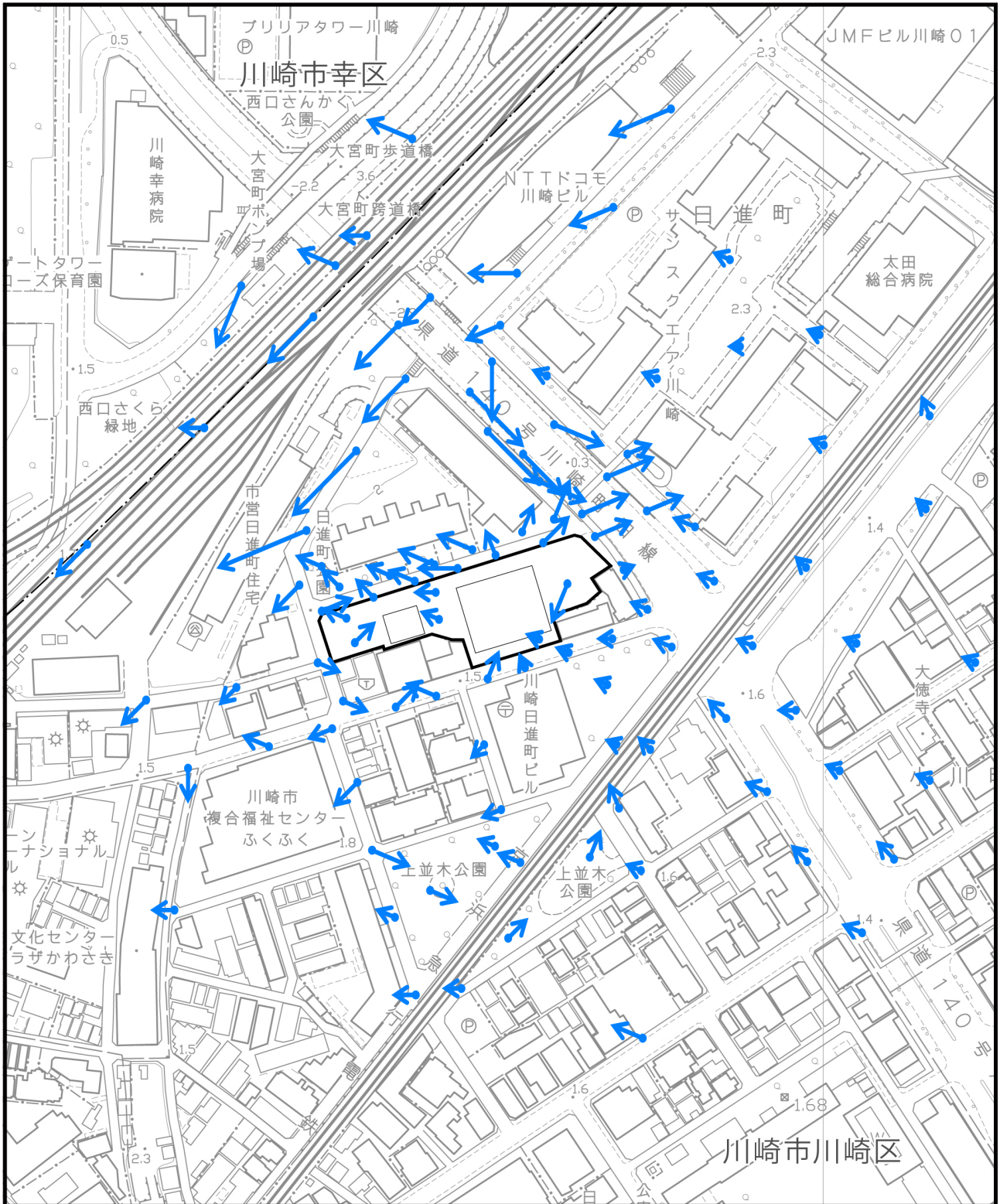





図 4.8.3-3(1) 風向北北西におけるベクトル図(現況)



凡例

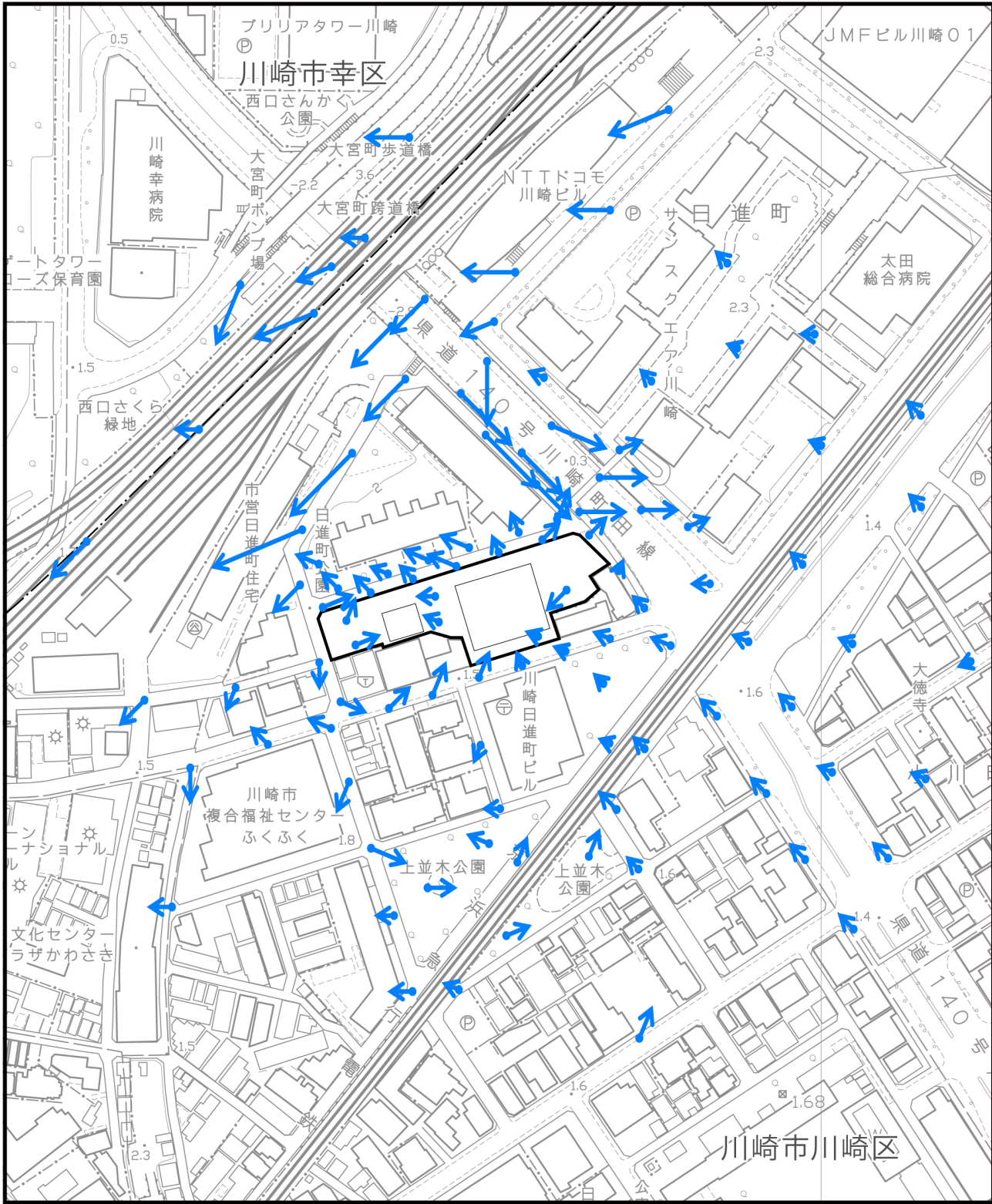
-  計画地
-  区界
-  風向・風速



Scale 1:2,500



図 4.8.3-3(2) 風向北北西におけるベクトル図(建設後)



凡 例

- 計画地
- 区界
- ➔ 風向・風速



Scale 1:2,500



図 4.8.3-3(3) 風向北北西におけるベクトル図(対策後)